

# 食 農 部 門

## 平成28年度受賞 奥多野生活研究グループ連絡協議会

活動を始めた時期：昭和60年4月 推薦：群馬県生活研究グループ連絡協議会長

### ～活動報告～

上野村と神流町は、過疎化が著しく、小中学校の児童・生徒数も少ない。また、奥多野地域には高校が1校しかないため、中学校卒業後は、地元を離れ、県内外の高校へ進学し、そのまま奥多野地域を後にするケースが多い。このような背景を受け、奥多野生活研究グループでは、平成15年度から、会員が材料を持ち寄り、中学生への「奥多野の味」の伝承の取組を開始しており、これまでに、地域特産物の赤ジャガ芋で作る芋串・じゃがいも団子のほか、生玉コンニャク、地粉のたらし焼き、すいとん、おきりこみ等の郷土料理の味と調理技術の伝承を行っている。また、調理経験が少ない子どもでも、「手作り」に興味を持てるよう、手軽に調理できる地産地消の料理の伝承にも努めており、本活動により、子どもたちとグループ員の世代間交流も図られている。

地域住民の高齢化と核家族化により、生徒の親の代も、奥多野の郷土料理を知らぬ世代となってきたことから、町村との連携により、有線テレビで伝承講習会の様子の放映を行い、地域住民への周知も図っており、伝承対象となった中学生だけでなく、地域住民も改めて郷土食と、その調理方法を勉強することができるよう工夫している。

このように、いずれ地域を離れることとなるであろう子どもたちを対象に、郷土の自然の下で生産されている農林業の恵と、長年培われてきた食文化を伝承し、郷土理解を促している。

# 活動の様子

おきり込みの技術伝承



有線テレビの取材



生芋こんにゃくの技術伝承

